

UNIVERSITY OF HYOGO

# Photo Anthology & Nostalgia

[上]旧神戸商大キャンパス・高丸ヶ丘

[下]学園都市にある現在の兵庫県立大学(神戸商科キャンパス) ※ドローンで撮影。遠くに明石海峡大橋、その向こうに淡路島が見える。  
高丸にあった旧神戸商大は、Anthologyの「y」の字通りである。



商大筋 垂水駅西口をでた、今は暗渠となってしまった天神川に沿って商大筋(仲田付近)を走る、ゴルフ場行きボンネットバス。昭和41年(1966年)



官幣中社 海神社

垂水駅バス停にて霞ヶ丘行の山陽電鉄バス  
「祝・山陽たるせんオープン」の文字が見える。  
山陽たるせんは昭和42年(1967年)3月開業。  
おそらく商大へ行くのにこのバス乗り場からみんな乗ったはず。

未来 ◀ 現在 ▶ 過去

# 「青春」 垂水および その界限」 1

「淡水」編集長 高嶋 順滋  
(昭和46年入学)

今でも「垂水」という街はある。昔、神戸商科大学という単科大学が高丸丘の頂上にあった。英語名でいえば「KOBE UNIVERSITY OF COMMERCE」である。ここに全国から毎年350名の学生たちが入学してきた。この大学の卒業生の総数は29,388人(2019年9月27日秋期卒業生迄を含む)にのぼる。北海道から沖縄までこの小さな大学に來たのだ。当時、遠方からの入学者は学生課に行き、入学前に下宿屋を斡旋してもらった。生徒の大半はこの「垂水およびその界限」で4年間を過ごしたのである。

「情報が人間を熱くする」というコマーシャルの名文句がある。これらの情報はすでに過去となっている「青春」を蘇らせる力になる。それだけ「青春」とは人を大きく成長させ、生きる活力の源になり得るもの。あれから、もう半世紀以上、当時の写真資料とともに、今の「垂水およびその界限」を中心に掲載した。「垂水」もあの「現在、過去、未来♪」の歌のように大きく変わった。その一端を見て当時を懐かしんでいただければ幸い。さらに「青春」に浸りたい方は、是非「垂水およびその界限」にお越しください。そして「我が青春」の手記を編集部あてにお寄せください。お待ちしております。

# 垂水 界限 アンソロジー & ノスタルジー フォト

UNIVERSITY OF HYOGO  
Photo  
Anthology &  
Nostalgia



垂水銀座通り  
昭和27年(1952年)このアーケード通りは  
垂水駅東口をまっすぐ北へすすんだ商店街である。

※アンソロジーは、同じジャンルの作品を集めたもの。  
ノスタルジーは、過ぎ去った時間や遠く離れた場所のことを  
懐かしく思う気持ちをいう。



## Special Thanks

「絵葉書で見るタイムスリップ」  
(垂水霞ヶ丘 絵葉書資料館 タイムロマン刊)  
令和元年10月1日発行(定価4300円+税)  
〒650-0021 神戸市中央区三宮町3-1-17  
(株)タイムロマン  
TEL.078-327-4680 <https://www.timeroman.com>

# 懐かしの垂水界限散策 START

これがかの伝説的な「珉珉」、今でもしっかり営業中。この店のジギスカンが商大生の一番人気、というかみんな貧乏学生でそれしか食べられなかった。バイト代が入るとそれに餃子がついた。昭和46年(1971年)の大学授業料が1.5万円(年間)、半期7,500円、それを滞納する学生もいたぐらい(実は私も)。



これが今でも一番人気のジギスカンセット(700円)…肉はマトン(羊肉)、硬くて貧乏学生には人気(肉食べたぞ〜という実感があった)だった。



今でもあの「ブラジル」店は営業している。すでに50年近く、中も当時の雰囲気のまま。アンティークさが受けて連日大賑わいの店なのである。



山陽電車垂水駅とJR垂水駅の西口を北にでたところ。おそらく、当時商大生は、昼間はジャズ喫茶に入りびたり(当時3軒ほど有り)、夜は付近でバイトをしながらの日々を送っていたのではないだろうか。

# TARUMI

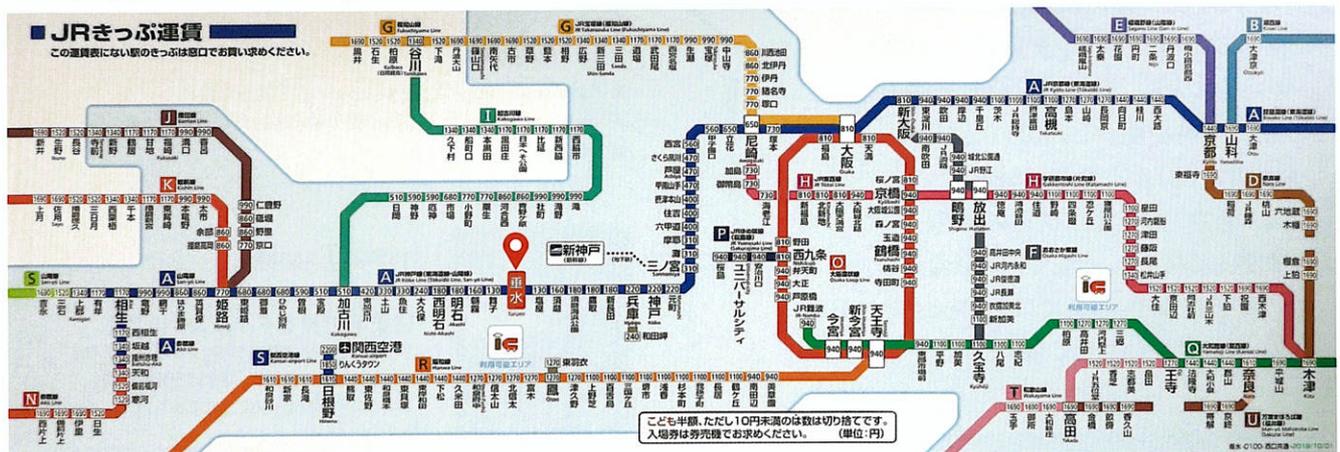


山陽電車垂水駅、その昔、山陽電車は垂水でも路面を走っていたとか。筆者(昭和46年入学)のときはすでに高架だった。



現在、垂水駅には東西にターミナルがある。旧商大方面はこのターミナル。この建物は昔ジャスコ(今イオン)があった。映画館もあり土曜日の夜は一杯だった。

これが今の関西エリアの駅名一覧 … JR垂水駅





大正9年(1920年)に日本で5番目にできた名門垂水ゴルフ倶楽部。今年100周年、日本でも稀有な存在のゴルフ場である。当時、関西の多くの経営者が省線で垂水駅まで来て、そこから馬車で垂水ゴルフ場まで登ったと歴史に残っている。当時松蔭女子大学が今のアウト6番のティーグラウンドの横にあったのだ。筆者は演劇部、松蔭女子と合同公演のための稽古にこのコースを何度か横切って行ったことを覚えている。



かつての高丸ヶ丘神戸商大跡地はマンション群とグルメエリアに様変わりしている。



「兵庫県立神戸高等商業学校・神戸商科大学記念碑」が当時の校門付近に今でもひっそりと立っている。記念に当時学舎の庭にあった大木の楠の子孫が一本植えられている。



駅南にある海神社。垂水が漁師町であった証でもある。



垂水東口を北に出たところ。昔は北へ銀座通りといわれるアーケードであった。パチンコ店や商店街が。おそらく当時の学生(田舎から出てきた)も「国際」とか言われるパチンコ店でギャンブルの洗礼を受けた人も多かったのではないだろうか。この写真の右の建物の中に現在は垂水区役所がある。福田、東垂水、宮本町、仲田、多くの学生が下宿していた。



ここは現在垂水徳洲会病院前、かつて昔、ここから商大へは「地獄坂」と言われたそう。記憶では昭和46年頃、バス代が25円だったのを覚えている。大学生協の学食ではカレーライスも25円だった記憶がある。





JR舞子駅(垂水駅のひとつ西駅)

# MAIKO



比翼な明石海峡大橋と淡路島



魚の棚(明石の商店街)



明石駅前のタワーマンション

# AKASHI



[上]舞子墓園の入口。当時教授たちの教員宿舎のすぐ隣がこの舞子墓園、神戸市内最大の墓園、標高80mほどの丘にある墓園、当時は運動部文化部ともに、練習場稽古場としてこの墓園の世話になったのではないだろうか？墓の間を縫ってのウサギ跳び、発声練習やコーラス。

[下]そして多くの学生がこの墓園の最南に位置する高台から淡路島や瀬戸内海を見て、望郷の思いに耽ったはずである。今でも置き忘れた「青春」を確認しに来るのであるとか、夫婦らしきカップルが訪ね来るらしい。まさに「ノスタルジックな丘」である。当時は、明石海峡大橋(1998年完成 3911m)も勿論無かった。あったのは悠久に流れる海流と故郷に繋がる空だけであった。



舞子ヴィラ



秋晴れの10月20日(日)のシーンと(孫文のいた)六角堂



テニスコート



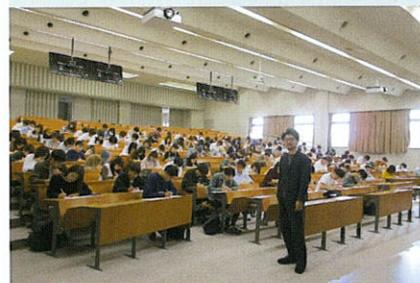
大学生協食堂のメニュー一部。カレーライスが286円、かけうどん176円(現在)等、貧乏学生には有り難かったなあ。下宿代が月1万円(朝、夕食付き)だった。



午後からの授業に向う学生たち。女子学生がほぼ半分、隔世の感がある。中央の建物が学術情報館(図書館)である。



キャンパスの中庭、語らいの場でもある。



東川准教授の授業風景(現在男女半々の学生数)



柔道場

兵庫県立大学正門、ちょうど昼時間で授業を終えて帰る学生も。バイトでもいいのか？最寄駅が地下鉄学園都市駅、徒歩5分。周辺には神戸外国語大学(六甲から移転してきた)、神戸芸術工科大学がある。(2019年11月20日・12時頃撮影)



大学本部棟



商科キャンパスの総合案内パネル



神戸商科キャンパス 国際学生寮 (2019年9月完成)



神戸商科キャンパス 教育研究棟 完成予想図 (2020年2月完成予定)

2020  
未来 ← 現在 ← 過去

# 「青春： 垂水および その界限」 2

特集  
編集後記

2019年の6月1日、初めて「徳島支部総会」に出席した。故郷には、阿波踊りや墓参りなどで度々帰郷はしているが、淡水会の総会には出席したことはなかった。阿南市山口町という小さな町から商大に来たのだが、下宿は垂水と舞子であった。当時商大には徳島県人会があり、先輩たちが新人歓迎会で海岸通りにある海浜学舎で、すき焼きと酒で歓迎してくれた。酒に慣れない新人たち(今ではパワハラ問題にひっきりなしに未成年の飲酒で大問題だが)は強烈な洗礼を受けたものである。徳島支部総会には学部4回卒の糟谷三郎さんも矍鑠として出席、懐かしい(大学時代以来の顔、もう50年前の顔)面々と邂逅、なんとも楽しい時間を持った。2次会のカラオケでは感極まり「来年も、いや毎年、帰ってくるぞ!」と叫んでいた。この日参加者の多くは、就職は故郷に帰り、その地方の企業や役所にお勤め、退職後はこうして淡水の同窓として楽しんでおられる、これも「青春」がもたらせた大きな財産であり、残り人生の豊かな送り方である。

現在淡水会には、全国に18の支部があり各地で総会、神戸では毎年6月「淡水会総会(※2020年は6月21日、於神戸ポートピアホテル、12:00~)」が開催されている。最近では若い淡水人の参加が増えてきているが、さらに盛大なものにしたいと事務局が積極的に呼び掛けている。

今回この特集を組んだ背景に、過ぎ去った時間や遠く離れた場所のことを懐かしく思うことで、再度母校を再確認いただければとの思いがある。また母校が発展し確たる教育実績をさらにあげてもらいたいとの願いに他ならない。

昨年9月、飯田淡水事務局長と二人で九州南端の鹿児島枕崎の「薩摩酒造」に出向いた。本誌にも掲載の商大卒業の淡水人本坊社長の取材のためである。その記事のタイトルを「友愛」とした。まだ年若き本坊愛一郎氏は入学時、紹介された垂水区霞ヶ丘2丁目の下宿屋で一緒になった商大生5人と今でも家族付き合ひの交流を続けている。爾来ほぼ40年、彼は「彼らがいなかったら卒業はできていなかった、これだけは自信をもって言えます」と語った。この言葉こそ「淡水人」の本質を表現した名セリフだと思った。皆さんにも同じような思いがあるのではないだろうか。(高嶋)

UNIVERSITY OF HYOGO

Photo  
Anthology &  
Nostalgia

